

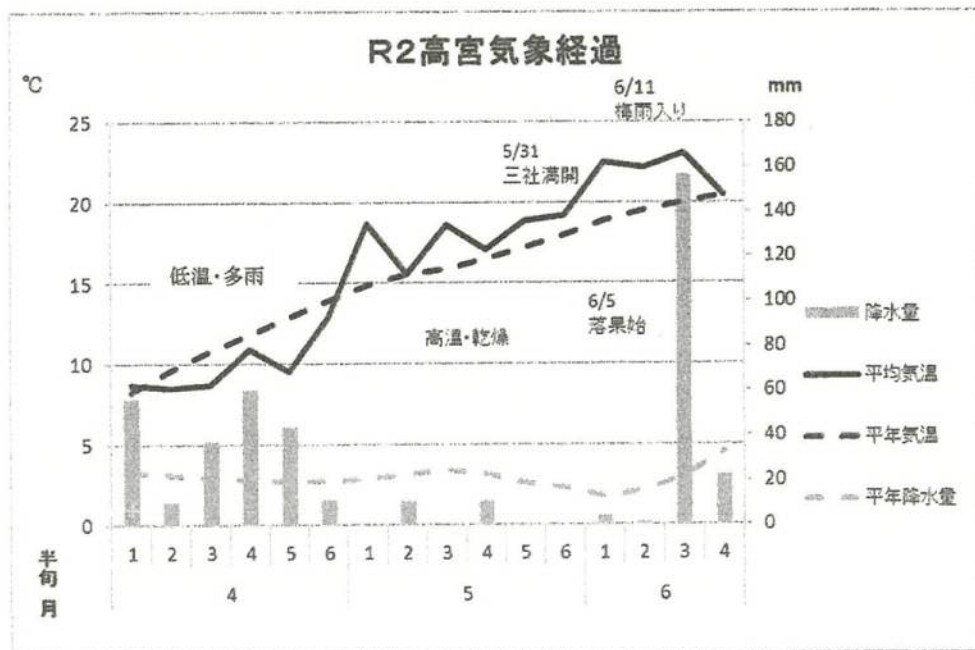
三社柿摘果講習会資料

令和2年6月

砺波農林振興センター

1. 生育状況について（6/20 現在）

（1）気象概況



〈特徴〉

【気温】4月は低く、下旬はかなり低くなった。5月は高く、中旬はかなり高くなった。6月はかなり高くなった。

【降水量】4月は多く（平年 134%）、中旬はかなり多くなった。5月は少なく（平年比 17%）、下旬はかなり少なくなった。6月上旬は少なく（平年 13%）とかなり少ない。

※今年の梅雨入りは6月11日頃（平年比1日早い）となった。

（2）生育状況

三社柿の展葉期は昨年より2日早い4月16日となったが、4月が低温であったため、開花始めは昨年より3日遅い5月29日頃、満開は昨年より4日遅い5月31日頃となりました（大西）。開花期の気温は高く、花卉の褐変が早かった。

生理落果は6月5日頃から始まり、9日頃から、本格的に落果し始め、6月20日時点では終息している。

6月20日現在の着果量は全体的には並みだが、ほ場によってはやや少ない（遅れ花が主に結実している）。

今後の摘果はまず平核無から行い、三社柿は7月初旬まで落果する場合も多いので、実止まりが確定する頃を見極めてから始め、7月末には終了する。

① 3Lサイズを中心に大玉果実生産を目指す。

② 樹勢に応じた着果量の調節でヘタスキ果発生防止。

（結実が少ない場合は、小玉や奇形果も残す）

2. 摘果について

(1) 三社

基準は葉果比 35

20cm以上の結果母枝1本に1果残す
(新梢(結果枝)3~4本に1果残す)
※結実量は樹勢や枝の勢いに応じて調節

ただし、毎年ヘタスキ果の発生が多い樹は、通常の樹より2割程度、多く果実を残す

(2) 刀根早生・平核無

葉果比 20~25

新梢(結果枝)2~3本に1果残す

3. 病害虫の発生について

(1) フジコナカイガラムシ

雄成虫のフェロモントラップによる誘殺時期は昨年並み、誘殺数は昨年、平年より、かなり少なくなっています。

6月上旬の気温がかなり高かったため、カイガラムシ幼虫の発生時期は平年より1週間程度早まっています。

カイガラムシはふ化直後の幼虫の防除効果が高く、成虫及び卵(白い綿状の固まり)には農薬は効きません。適期をのがさず防除を行って下さい。(管理情報参照)

防除効果を高めるために、①1箇所から多数発生した徒長枝の基部→横向き~斜め上向きに発生した枝1本を残し、他は切除。

②主幹や主枝の基部(主幹から約50cm以内)背面から発生した徒長枝→すべて切除。

(注) 激しい、芽欠きは生理落果を助長する場合がありますので注意して下さい。

(2) チャバネアオカメムシ (写真1)

本年はフェロモン予察トラップ(幼木試験ほ)にかなり多く誘殺されています。

毎年カメムシの被害が発生する山際などでは、特別防除を行って下さい。(管理情報参照)



写真1 チャバネアオカメムシ成虫
(体長10~12mm)

頭 チャバネアオカメムシの飛来状況

